

日時：2024年 3 月 5 日（火）

10:00-18:00（開場：9:30～）

場所：立命館大学衣笠キャンパス
平井記念図書館1Fカンファレンスルーム

モダニズムの水平線 ～世界文学シンポジウム～

PROGRAM

参加無料、事前要申込
参加URL <https://x.gd/91Z9R>



総合司会：吉田恭子

10:00～ 基調講演①（司会：阪本佳郎）
「連なり越えゆくものを感じる——石牟礼道子の「脱近代」」
渡邊英理（大阪大学）

11:10～パネル① 日本文学の接続点（司会：田尻芳樹）
▪「西脇順三郎とグレーム・グリーン——回帰するモダニズム、
あるいはレイト・モダニズムについて」
佐藤元状（慶應義塾大学）
▪“Global Modernism and Contradictory Time in Nogami Yaeko's
‘Yama-uba’ ” Ryan Johnson（東京大学）
▪「「プロメテウス」から、芥川龍之介「地獄変」へ」
澤西祐典（龍谷大学）

12:30～ランチタイム（参加者無料）

13:30～パネル② よみがえるポエティックス（司会：秦邦生）
▪「そよ風と熾火」阪本佳郎（立命館大学）
▪「アクアリウム」佐藤元状
▪「国際あなた学会」澤西祐典
▪“Dogs and Miracles” 吉田恭子（立命館大学）

15:10～パネル③ モダニズムの対位法（司会：佐藤元状）
▪「ハンナ・アーレントとラルフ・エリクソン——
1950年代のユダヤ系知識人と黒人知識人の対立」大形綾（京都大学）
▪「Kazuo Ishiguro, The Unconsoled (1995)における〈普遍性〉の夢」
秦邦生（東京大学）
▪「J.M.クッツェーとJ.S.バッハ」田尻芳樹（東京大学）

16:40～基調講演②（司会：吉田恭子）
「英語圏文学とポーランド人」西成彦（立命館大学）

*懇親会も開催いたします（参加者負担）

現在、モダニズム文学の研究者であることは、世界文学、またはグローバル文学の研究者であることを意味します。一国の文学もしくは一つの言語の文学を研究するだけで、専門家を称することのできた時代はすでに終わりました。またコミットメントの形態も一気に多様化しました。アカデミックなペーパーのみならず、クリエイティヴな形のアウトプットも、主流になりつつあります。「モダニズムの水平線」という私たちのシンポジウムのタイトルには、このような野心が込められているのです。

主催：
立命館大学国際言語文化研究所
科研費課題20H01244
「英語圏モダニズム文学における
複数の時間性に関する包括的研究」
科研費課題19KK0010
「冷戦期東アジアにおける創作教育、
文学、大衆文化」

お問合せ：吉田恭子
kyoko@fc.ritsumei.ac.jp